

でんでんくん



でんでんくん by eriko

でんでんくんは、年6回（奇数月1日）発行予定です。

秋田県立聾学校 聴覚障害教育支援部

TEL 845-0291 FAX 845-6902

夏休みが終わり、今年度も後半戦に突入しました。長期休みの後の子どもたちの様子はいかがでしょう。夏休みのたくさんの思い出について話し合う中で、子どもたちの心身の成長が感じられたのではないのでしょうか。あるいは、長い間会わずにいると「こんな話し方だったかな?」「呼びかけへの反応がよくないな」等と思われる場合もあるかもしれません。聴こえの様子、言葉の様子を再度チェックし、変化を把握することは大切です。しかし、何よりも「こんなことがあったよ」「楽しかったよ」という「伝えたい」気持ちを受け取り、想いを聴き取る態度を忘れないようにしていきたいと思えます。



聾学校支援部

夏休みの思い出

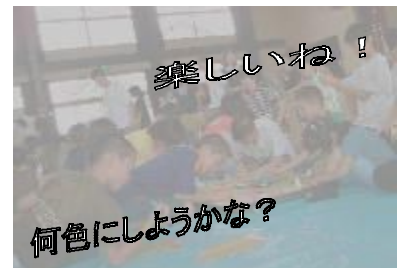
難聴児童生徒の集い 7/29 (土) AM

第10回を迎えた「難聴児童生徒の集い」には、幼児、児童、生徒、保護者、担当者あわせて62名の参加がありました。

子どもたちは「のびのびアート」でダイナミックに造形活動を楽しみました。本校卒業生3名がボランティアとして協力してくれたことも、よい刺激になったと思います。交流会では、久しぶりに会う友だちと、楽しそうに会話したりゲームに夢中になったりする姿が印象的でした。

話題提供では、保護者、難聴学級担当者それぞれの体験談を聞くことができ、「感動した」「気持ちが楽になった」等の感想が多数ありました。「聴覚障害者自身の話が聞きたい」といった要望もあり、今後の参考にしていきたいと思えます。

くわしくは、「集いだより」でお伝えする予定です。



補聴相談会 7/29 (土)、31 (月)、8/1 (火)

初めての企画でしたが、15名の児童、生徒が来校し、聴力測定や補聴器の点検を行いました。3日間の設定でしたが、時間が足りない程でした。これを機会に初めて本校に来てくださった方や、久しぶりに来てくださった方もおり、嬉しく思いました。今後も、補聴器のことや聴こえについて気軽に相談していただける機会を作りたいと考えております。



☆お知らせ☆

9月23日(祝日)

聾学校

学習発表会

ステージ発表

9:30~11:30

作品展示

9:30~14:30

お待ちしております!



午前中の集いに引き続き、担当者研修会を行いました。本校職員も合わせ、計16名の参加がありました。今回は、VTRによる授業研究ということで、本校サテライト教室での「わたり（教科書に入る前）の段階の子どもの指導」「説明文を使った指導」の様子を視聴し、意見交換を行いました。

また、県障害児教育相談指導員の石井先生からは具体的な指導助言をいただき、暑い中、足を運んでいただいた分、有意義な研修となりました。研修の概要を紹介いたします。参加できなかった方でも、詳しい記録の希望がありましたら、気軽に豊学校支援部までご連絡ください。

「わたり(教科書に入る前)の段階の子どもの指導」

【指導のねらい、様子について】

①生活文の読解問題を扱った指導

- ・文章の読解を始めたばかりの段階。実際に本児が経験した内容の文章を使用した。
- ・文章のイメージ化を図るために、自分の経験が想起できる手立て、ペープサートを使い、視覚的に理解できる手立てを行った。

②「お店」を題材にした言語指導

- ・学校の夏休みの宿題をもとに、『物の名前を取り上げながら、その使い方や動詞へと広げていく』ことをねらった。
- ・教師が話した文を真似て話すこと（口声模倣）に慣れていないため、単語ではなく文章で答えられる手立てとして文型の短冊（「～は～で売っています」）を示した。

話し合いから



「本人も経験した内容の文章を取り上げたが、まだまだ経験したことを文章にする積み重ねが大事な時期だと思う」

「内容を少し変えて学校でも繰り返し扱ったら、正しい文章で問題に答えられるようになったけれど、内容の理解が深まったのかは分からないなあ」

「テストで答えられたからといって本当に理解しているとは限らないですよね…」

「本当の課題は、問題の背景にある部分（例：なぜそんな気持ちになったか）だと思う。必要だとは思いますがそこに触れると時間がかかって…」

石井先生から



* **実際にやってみる、やらせてみる**ことを通さないと理解が難しい場合が多いです。**文章題に入る前に関連する言葉や内容に触れてみる**ことも大切です。

* 簡単な文でも自分で経験していないと読めないことが多いです。**日常的なことはやはり家庭でしっかり経験させて欲しい**ものです。

* 心情の読み取りについて、その部分を表すところに線をひくなど、「言葉を探す」のではなく**「状態」が書いているところを見つけられるか**が、いい作文指導につながります。

* **「会話の中で動詞を指導する」**これが大事ですが、理解しづらい部分でもあります。単語や動詞の獲得や、簡単だが分かっていない言葉などを会話の中で指導していくことが大切です。担任だけでなく、他の先生の協力が得られればなお良いですね。

「説明文を使った指導」

【指導のねらい、様子について】

- ・文章の読解では、大まかな内容を読み取ることはできるが、細かい部分になると単語を並べて回答することが多い。会話の中で、文の主述を整えることをねらっている。
- ・また、聴き取りにくい新出語は取り上げるようにしている。
- ・理解のあいまいな点をどの程度まで取り上げればよいのか。本人も自信をなくしがちだったり、保護者の心配が本人の心理面に影響したりすることもあり、迷う所である。
- ・通常学級在籍のため、担任がサテライトに来ることは難しいが、指導の効果を上げるために上手く連携していきたい。

話し合いから



「高学年の児童に、言葉の意味を漢字から連想させたら理解できたようだった」「漢字からイメージを拡げることでもできるのでは」「分からない言葉を取り上げると、表情がくもるので、確認してくことに戸惑ってしまって…」「設問には答えられるが、深くじっくり考えることが難しく、深まらない」「中学校では指導時間が限られるので、取り上げる情報を精選しなくてはならない」「抽象的な言葉がどんどん出てきて、回答できないわけではないけれど、言葉でつまづいていると分かっているがとりあげられないでいます…」

石井先生から



- * 漢字は手話と同じで、意味を視覚で捉えることができます。子どもの理解によいのであれば、取り入れていってよいでしょう。
- * 中学校の話を知ると、小学校段階での取り組みの重要性を改めて感じます。説明文では言葉の的確な実態把握ができるので、説明文での丁寧な指導が大切です。
- * 一つのことについて、今回提示した指導のように「当て字」「特徴」「文章以外の内容の取り上げ方」など様々な側面から触れていくことが、文章をきちんと理解するためには重要です。言葉や知識の連鎖を作っていくことです。
- * 「本当は全く読んでいない」＝「曖昧に読んでいる」状態が続くと、「物を見る」「考える」こともぼんやりしてしまい、人格形成にも影響してきます。自分の障害克服が難しいことにもつながります。

書籍の紹介



聴覚障害児の理解のために 第26集 一幼稚園・小・中学校の先生の質問に答える

執筆：井上皓太郎 今井秀雄 金山千代子

発行：全国心身障害児福祉財団 難聴児を持つ親の会 300円

難聴とは？補聴器とは？学校における注意点など、親が子どもの新任の先生に知っておいてもらいたいことをまとめた一冊です。**目次より**統合教育における難聴児の教育目的はなんですか？小学校ではどんな事に注意すればよいでしょう？クラスの子どもに、難聴児をどのように紹介したらよいでしょう？学習が遅れがちですが、どのようにしたらよいでしょう？

この他、シ

リーズで「第27集 聴覚障害をのりこえて、学力を高める」「第28集 補聴器の上手な使用法」「第29集 聴覚障害のある子どもを母語のない子にしないために」等もあります。